

平成25年度
第3回木更津市史編集委員会

日時 平成26年 1月30日(木)
午後2時00分から
場所 市役所6階 会議室

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 報告

報告1 第2回木更津市史編集委員会議事内容

報告2 調査・研究の進捗状況(自然部門、歴史部門)

5. 議事

議題1 『図説 木更津のあゆみ』の活用

議題2 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定

6. その他

7. 閉会

報告1 平成25年度第2回木更津市史編集委員会議事内容

開催日時 平成25年10月23日(水)午後2時00分から午後3時30分

開催場所 市役所6階 委員会室

議題内容

報告1 第1回木更津市史編集委員会議事内容

報告2 他の自治体の市史編集事業

議題1 これまでの『木更津市史』の編集状況

議題2 市史編集業務の内容および検討事項の確認

その他

主な意見内容

- ・木更津市史編集委員会委員は、資料の調査や研究に直接携わるのではなく、調査や研究の方法、市史編集基本計画や構想を検討する立場であることを確認。(金子委員長)
- ・新たな『木更津市史』では、『資料目録』を作成する。また『資料目録』作成に要する期間を決定する。(三浦副委員長、實形委員)
- ・木更津市史編集事業経費の見込みについて。(成田副委員長)
- ・資料の保管、撮影、研究等の作業場所の確保。(實形委員)
- ・以前実施した文化財悉皆調査結果の公開と、公開のための体制づくり。(島立委員)
- ・市内の自然環境調査については、早急に調査員を決めて実施。(成田副委員長)
- ・編集事業を進めるための部会内容の確認。(川戸委員)
- ・図書館所蔵資料の『資料目録』の作成。(三浦副委員長)
- ・郷土博物館金のすず企画展「幕末の木更津」で借用中の資料を、郷土博物館と市史編集事業と共同で『資料目録』を作成。(實形委員)

※詳細は平成25年度第2回木更津市史編集委員会会議録を参照

事務局からの回答

・新たな『木更津市史』の編集事業に要する経費については、基本構想や、策定の方針についての意見を踏まえて算定する。

・平成8年度～16年度までの文化財悉皆調査は、現地調査4回、会議2回実施し、平成11年度のみ現地調査は2回。悉皆調査記録の公開については、改めて検討。

・市史編集業務の内容および検討事項は、事務局で提案した事項について進める。

(1)市史編集組織について

(2)新たな『木更津市史』編集に伴う部会の設置・運営・人員管理等

(3)新たな『木更津市史』編集に伴う調査の方法、対象の選定等

(4)調査員、執筆員の選定・人員管理等

(5)新たな『木更津市史』資料編・通史編のほか、市史研究、索引・目録、DVD等の編集・製作・発行、デジタルコンテンツ(ホームページ掲載用)作成

(6)市域の歴史的史料・民具の調査、収集(借用含む)・整理

(7)市域の生物(植物、動物)調査、収集(借用含む)・整理

(8)収集資料の保管または移管

(9)収集資料の活用

(10)既存刊行物の調査・収集・目録作成、既存刊行物の整合性検証等

(11)その他

報告2 調査・研究の進捗状況(自然部門、歴史部門)

自然部門

1 植物調査

開発が進む木更津で、失われる可能性のある場を最優先する。今回は調査地の選定という目的で簡単な調査を含めて行う。12月は冬のため調査を行わない。

1)調査地の選定の候補地

- ①金田地域 海岸植物調査（盤洲干潟を除く）及び全般
- ②市南部開発地域 請西、下烏田、畑沢、大久保、上烏田

2)調査時期と日数 それぞれ各1日、計2日(11月)

2 動物調査

調査候補地選定の予備調査。『図説 木更津のあゆみ』で調査した場所の環境の現状を確認する。同時に、簡単な調査を行う。

2月中旬～3月下旬に谷津で、両生類繁殖行動、卵塊の予備分布調査を行う。

1)調査候補地

- ①金田地域 海岸、及び水田地帯
- ②市南部開発地域 請西、下烏田、畑沢、大久保、上烏田
- ③矢那、真里谷、茅野などの谷津
- ④田川、下郡などの谷津
- ⑤伊豆島、犬成、笹子の水田地帯

2)調査日

- ①11月:1日、12月:1日 主に調査地選定の予備調査
- ②2月下旬:1日、3月下旬:1日 主に両生類卵塊分布予備調査 計4日

3 地学調査

露頭(ガケ)は地下内部のつくりを知るための重要な情報源であり、多くの露頭からの情報はより詳細な地下の様子への復元に役立つ。

開発・改変が進む木更津市域にあって、いずれは消滅してしまうことになるので、写真とともに地質柱状図を作成し記録する。

1)調査日: 12月の1日

2)調査候補地

木更津北インター南側の砂採取場

4 中間報告について

自然関係は、本編の予備的調査に加えて、『図説 木更津のあゆみ』の時に行った調査のまとめをする。

内容は①種名 ②採集、確認の月日 ③採集、確認の場所 ④その他。

5 調査経過

日付	調査場所	調査内容
11/14	牛込海岸	植物
11/14	畔戸	植物
11/21	矢那、草敷、田川	動物
11/21	山本、茅野、真里谷、蛭作	動物
11/23	大久保	植物
11/27	矢那、下烏田、畑沢	植物
12/13	笹子	地学
12/24	馬來田、犬成、伊豆島、矢那川、烏田川	動物

歴史部門

郷土博物館金のすずで開催した企画展「幕末の木更津」で借用中の請西藩関係資料と図書館所蔵の中郷文書について調査を行い、『資料目録』を作成し、『木更津市史』を編集する際の基礎資料とする。

1 木更津市立図書館

1)調査日:12月から週1日～2日程度行う。

2 郷土博物館金のすず

1)調査日:12月は1日程度、1月は週1日～2日程度行う。

3 調査経過

日 付	調 査 場 所	調 査 内 容
12/11	図書館	状況把握、作業方針検討、資料目録作成
12/18	図書館	資料目録作成
12/22	金のすず	現状記録、仮目録作成
12/25	図書館	資料目録作成
1/6	金のすず	仮目録作成
1/8	図書館	資料目録作成
1/10	図書館	資料目録作成
1/12	図書館	資料目録作成
1/15	図書館	資料目録作成
1/21	金のすず	仮目録作成
1/27	金のすず	取り上げ記録、資料袋詰め作業

議題1 『図説 木更津のあゆみ』の活用 —Web 版作成について—

『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針について」の「3. 編集の方針について」の中で、「写真や図版を多く取り入れるほか、ニューメディアの活用も考慮して、市民が親しみやすい市史を編集」する。

1. 他の自治体の市史編集事業 —自治体史Web版について—

東京大学史料編纂所の調査では、平成24(2012)年9月時点で自治体史をWeb上で公開が確認されているのは48団体

事例① 兵庫県尼崎市 『図説尼崎の歴史』Web版

Web版
図説 尼崎の歴史

フォントサイズ：標準 大 特大

■ トップページ ■ サイトマップ ■ 執筆者一覧 ■ 尼崎市立地域研究史料館

尼崎の歴史形

josei kodai chuusei kinsei kindai genrai

序説 古代編 中世編 近世編 近代編 現代編 上巻グラビア 下巻グラビア 年表

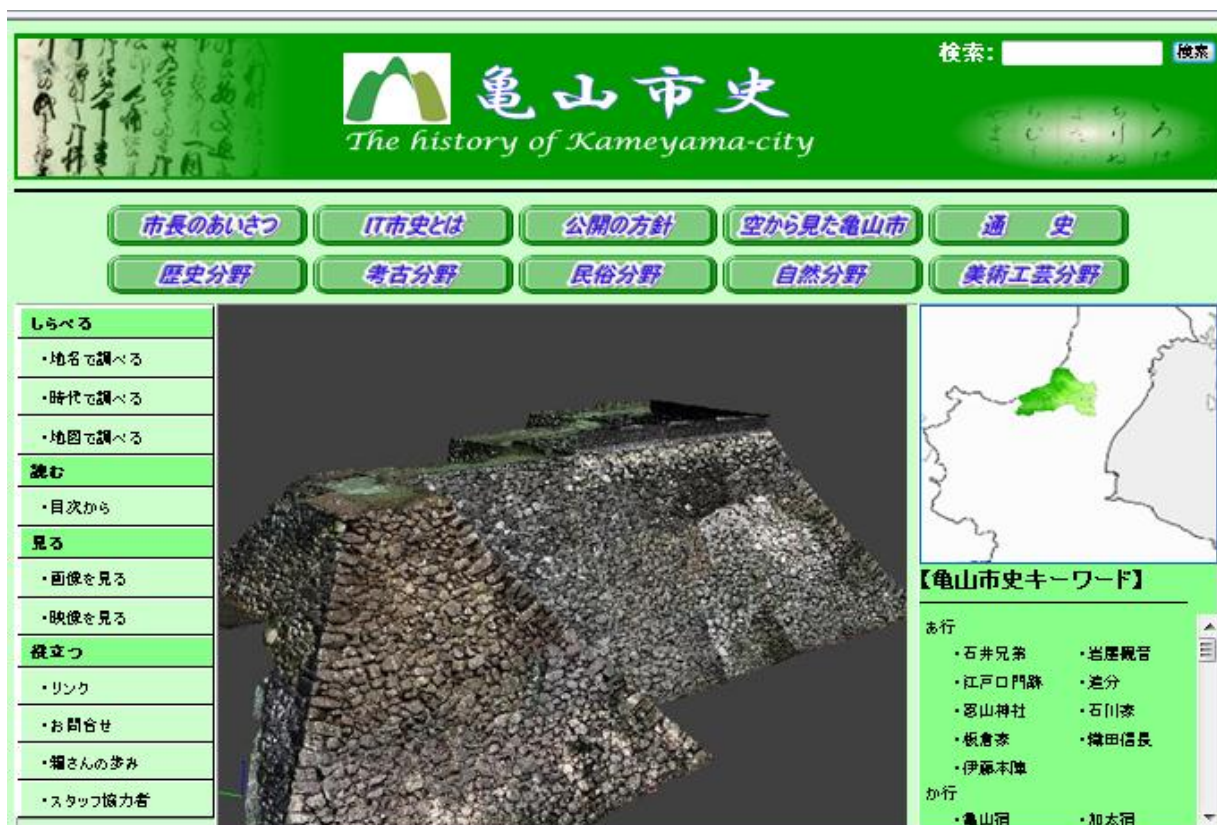
平成19年（2007）1月、尼崎市は市制90周年を記念する新「尼崎市史」として、『図説尼崎の歴史』（上下巻、計530ページ）を刊行しました。

Web版『図説尼崎の歴史』は、尼崎市と園田学園女子大学短期大学部が共同して、この刊行物の内容をもとに作成したWebサイトです。尼崎市が提供したデータをもとに、園田学園女子大学短期大学部生活文化学科情報メディアコースの学生がサイトを設計し、構築作業を行いました。

このサイトを、尼崎地域の歴史に関心を持ち、知りたい・学びたい・調べたいという皆さんに活用していただければ幸いです。

※『図説尼崎の歴史』Web版のトップページ

事例② 三重県亀山市『亀山市史』Web版



※『亀山市史』Web版のトップページ

2. 公開方法について

HTML方式・・・Web上に新たに編集した本文を公開し、検索、閲覧を可能にする。印刷は、一部可能。

PDF方式・・・『図説 木更津のあゆみ』を、冊子体裁のまま市のホームページにPDFで公開し、ファイルをダウンロードでき、印刷も可能。検索はできない。

電子書籍・・・市のホームページに直接またはリンクする専用サイトで公開し、サイトに登録した者のみデータをダウンロードして利用期限付きで閲覧する。印刷と検索はできない。

3. 公開の範囲

全部公開

一部公開

4. 公開にあたっての問題点

著作権

『図説 木更津のあゆみ』の内容再検証、再編集

5. 公開後の取り扱い

サイトの管理運営

新たな『木更津市史』刊行後の取り扱い

議題2 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定について

1. 策定の趣旨について
2. 編集目的について
3. 編集方針について
4. 『木更津市史』の内容、構成について
5. 編集期間及び刊行計画について
6. 市史編集組織について
7. 部会構成員(調査員)の推薦について
8. 市民協働(ボランティア)について
9. 編集スケジュールについて

【参考】

『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針について

1. はじめに

平成24年度に迎える市制施行70周年記念を機に、新たな木更津市史を編集することになりました。昭和47年(1972年)に『木更津市史』、昭和57年(1982年)に『木更津市史―富来田編―』を刊行した後、35年以上経過しました。この間、高度経済成長とともに、土地区画整理事業など都市基盤整備が進み、人口も増加し、市民のライフスタイルや生活環境も大きな変貌を遂げてきました。このため市制70周年を契機に木更津市の自然や歴史、伝統文化を見直し、本市の更なる発展に資するため木更津市史の編集、刊行をいたします。

2. 編集の目的

- (1) 市制70周年を契機に、新たに刊行する市史により木更津市の歴史・自然・文化を再確認し、市民が情報を共有することによって、未来を展望する。
- (2) 歴史的・文化的遺産の散逸・消滅・廃絶を防ぐとともに、新しい資料や史実の発掘・発見に努め、それらを学術的・体系的に整理・記録・保存し、後世に伝える。
- (3) 木更津市の豊かな自然を認識し、環境への関心を高め、自然と共生した潤いある生活に活かしていく。
- (4) 市内の地域的特性を踏まえ、市民の地域的連帯感やふるさと意識、さらに、市民意識の高揚を図り、今後のまちづくりに活かしていく。
- (5) 木更津市の歴史・自然・文化に関する情報を全国へ発信する。

3. 編集の方針について

- (1) 昭和47年に刊行された『木更津市史』及び、昭和57年に刊行された『木更津市史―富来田編―』をはじめ、これまでの市内外の諸研究を参考とするとともに、各学問分野における最新の成果を盛り込み、市民が求める視点を重視し編集します。
- (2) 広く市民に親しまれ、まちづくりや生涯学習、学校教育等で活用される市史をめざします。

- (3)各分野の専門家の執筆により、質の高い学問レベルに耐えうる内容を保ちながら、平易な文章で読みやすい市史とします。
- (4)写真や図版を多く取り入れるほか、ニューメディアの活用も考慮して、市民が親しみやすい市史を編集します。
- (5)木更津の地域的、経済的、歴史的、文化的な特性に配慮し、地域に生きる人々の視点を踏まえながら編集します。
- (6)資料は、市内外から広く収集し、有形のものだけでなく、伝承や年中行事など無形のものにも配慮して収集します。
- (7)編集の過程で調査、収集した資料は、適正に保存、管理するとともに、郷土博物館金のすずにおける展示などあらゆる機会を通じ、広く市民に公開し、活用に努めます。

4. 市史の内容、構成について

図説『木更津のあゆみ』は、“市制70周年記念事業の一環”として(仮称)新修『木更津市史』刊行に向けての序章的な位置づけ(別巻)とし、平成24年11月に刊行する。このことを通じて、新たな『木更津市史』刊行の気運を高めていく。

図説『木更津のあゆみ』の掲載内容については、「原始・古代～現代」の木更津の歴史の概要を掲載するが、今ならば多くの市民からの時代の証言が得られ、記憶に新しい昭和、特に昭和47年以降を加えて編集し、市民の興味や関心が湧くように工夫する。

編集方針については、生涯学習や学校教育などで、市民が地域の歴史を学ぶ際にテキストになることをめざし、親しみやすい図や写真を中心にコラムなども盛り込んで掲載し、理解しやすい市史にする。

このことより郷土木更津の歴史への興味、関心を高め、市民参画の市史編集に向けての環境を醸成し、まちづくりに資することを目的とする。

そして、本編の(仮称)新修『木更津市史』の編集に活用するため、既刊の『木更津市史』、『木更津市史－富来田編－』に掲載されていない時期である昭和47年以降を加え、またそれ

以前の資料の整理・保存を並行して行う。

(仮称)新修「木更津市史」については、本編4巻「原始古代」「中世・近世」「近現代」「自然・民俗」(案)、資料編3巻「考古学資料・中世金石文・古代～中世文献資料」「近世文献資料」「近現代文献資料・近現代写真資料」(案)とし、より詳細な内容で刊行できるよう市の長期計画への位置づけを目指す。図説『木更津のあゆみ』を読んで、興味を深めた人、もっと詳しく調べたいときにこの(仮称)新修『木更津市史』を活用してもらえることを目指す。

別巻(1巻)

図説『木更津のあゆみ』

写真や図面等を使って、わかりやすく木更津の歴史をまとめます。

いわゆる市史の普及版的な刊行物とします。

発行部数 3,000部(有償頒布)

5. (仮称)図説『木更津のあゆみ』編集期間及び刊行計画について

市制70周年事業の一環として、平成24年11月に『木更津市史別巻』として刊行し、木更津市史の市民への普及を図ります。

6. 頒布方法について

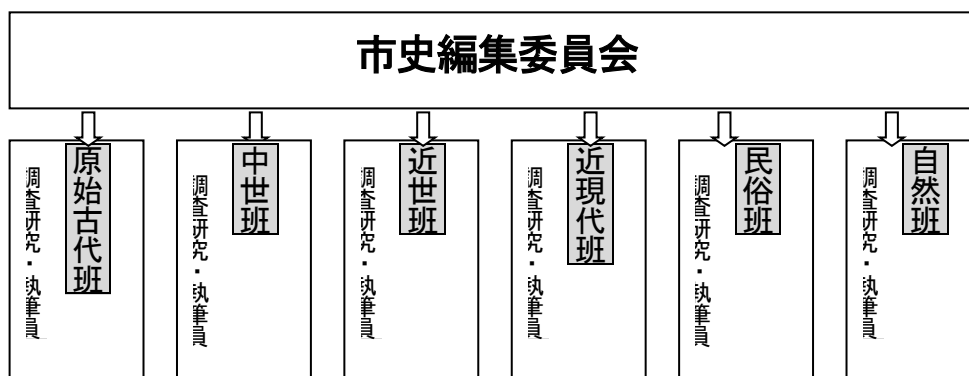
市史の頒布については、市民の購入しやすい価格設定、購入方法を検討します。

7. 市史編集組織について

- (1)市史編集にあたっては、刊行計画、編集方針などを審議する市史編集委員会を中心に、具体的に活動する専門委員会(調査研究・執筆員)で編集作業を行います。調査研究・執筆員は、下記の6班に分かれ、各班ごとに調査研究・執筆活動を行います。また、市史編集委員は、この班のいずれかに所属し、調査研究等も行います。
- (2)郷土史研究者等、木更津の自然や歴史に関して深い学識を有する方々から、編集事業についての指導、助言や連携を得られるよう考慮します。

【調査研究・執筆員】

原始古代班	委員2名
	調査執筆委員 14名
中世班	委員2名
	調査執筆委員 5名
近世班	委員 1名
	調査執筆委員 5名
近現代班	委員2名
	調査執筆委員 8名
民俗班	委員2名
	調査執筆委員 5名
自然班	委員2名
	調査執筆委員 5名



【参考】

新たな『木更津市史』 自然編 編集基本構想及び編集方針について

(成田(案) 2011年8月27日作成、2013年8月16日改訂)

編集方針及び組織について

1 基本事項

- ・将来に伝えていきたい、木更津の特徴ある自然の現在の状況を主に記録する。
- ・木更津市自然の特徴をあらわすように記載を心がける。
- ・コラム、トピックスを活用して、親しみをもたせるために出来る範囲で、自然と市民の生活との関係、方言、伝統文化、伝承などを考慮して記載する。
- ・一般読者(小学校高学年から中学校程度)が、理解できるように簡潔・平易な文章で記述する。
- ・写真・図を多用する。
- ・CDなどデジタル化を積極的に図る。
- ・種リストには差し支えない範囲で、採集地や観察地を記載する。

2 体裁、組版など

- ・判型はA4版 縦 横書き、2段組 頁数 約250～300頁(CDを含む)とする。

参考

- ・鎌ヶ谷市史(2011年) 別巻2(自然) A4判 本文200頁、CD:種目録 植物30、昆虫33、クモ5 計約280頁
- ・袖ヶ浦市史 自然・民俗編(1999年) A4判、縦、1段組、頁数約600、自然は約250
- ・市原市史(別巻) 自然と民俗(1979年) A4 縦2段組 約830頁 自然関係:約200頁

3 文体、用字(漢字・かな)、用語

- ・文体は口語体とし、「である」調とする。
- ・漢字は原則常用漢字とする。

- ・固有名詞・歴史用語などは必要に応じて適宜常用漢字でない漢字も用いる。
- ・送り仮名は広辞苑を基準とする。
- ・敬称・敬語は使用しない。
- ・難読と思われる用語にはふりがなを付け、専門用語をわかりやすい言葉に置き換える。
- ・1頁に1点以上の割合で写真・図・表を掲載するように心がける。

4 編集組織

調査研究・執筆員

自然班 委員2名、調査執筆委員 11名

- ・地学関係 気候 1名、大地 1名
- ・植物関係 陸上植物 木本 1名、草本 1名、海藻関係 1名
- ・動物関係 脊椎動物(淡水魚類も含む) 2名、昆虫 2名
海生動物 海生魚類 1名、甲殻類、その他 1名
- ・市史編さん協力員、ボランティアなど 数名～10名

本編『木更津市の自然』(仮) 目次 2011年9月29日改正、2011年10月21日訂正

2013年8月16日改訂

はじめに

I 木更津市の気候

- (1) 千葉県気候 1) 気温の特徴 2) 降水量の特徴
- (2) 木更津市気候 1) 気温 2) 降水量 3) 風向 4) 天候頻度 5) 極値
- (3) 木更津市とその周辺の生物季節 1) 植物季節の推移 2) 開花日と気象条件
- 3) 終わりに
- (4) 木更津市の大気環境

II 木更津の大地

- (1) 大地のすがた-地形-干潟の成り立ち
- (2) 大地のなりたち-地質-
- (3) 大地のおいたち-地史-
- (4) テフラ鍵層と貝化石
- (5) 湧水のこと
- (6) 地震と津波
- (7) 県自然環境保全地域など

III 植物

はじめに

1 木更津市域の植生の変遷

- (1) 氷期から弥生初期の植生
- (2) 古代の植生
- (3) 明治時代以後の植生
- (4) 現代の植生の変化

・昭和前半までの植生

・現在の植生

2 森や林の現状と植物たち（里山・里地の植物たち）

(1) 自然林 ・高蔵寺の森 ・熊野神社の森 ・浅間神社の森

・音信山の西斜面の照葉樹林

(2) 二次林 ・七曲のコナラ林 ・地蔵堂のシラカシ林 ・泉谷？のイヌシデ林

・矢那・伊豆島のコナラ林

(3) 特殊な林 ・音信山の竹林 ・いっせんぼくのハンノキ林 ・モミ林

・人工林、中郷のナシ林、矢那のクリ林(→これらはトピックスに入れる？)

(4) 里山の林

(5) 市民の身近な森 ・太田山の森 ・少年自然の森(城山の林) ・小櫃堰公園

・アカデミアパークの林

3 市街地の植物

(1) 草本 ・道路 ・港湾

(2) 庭木

(3) 街路樹

4 蓮田、谷津田など湿地の植物たち(湿地や川や堰などの植物)

蓮田、川、堰等、谷津田

5 干潟の植物

6 木更津市の貴重な植物たち

(1) 重要な生物

(2) 天然記念物

(3) 巨樹・古木・名木

7 侵入してきた植物たち

(1)温暖化で侵入してきた主な植物

(2)代表的な帰化植物

8 木更津市の植物相の特徴と今後

IV 動物

はじめに

1 動物相の移り変わり

縄文以前、縄文の動物、江戸時代、戦前、戦後 30 年代以降、現在

2 現在の動物相と将来の動物相 (→最後へ?)

3 地域の動物

(1)里山・谷津田の動物(平地の農耕地、水辺も含める)

・哺乳類 サル、シカ、アナグマ、イタチ、アズマモグラ、ヒミズ、ジネズミ、アカネズミ、
ハツカネズミなど

・鳥類 山里の鳥を中心に記載

・爬虫類 マムシ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ

・両生類 各種の生態、カエル暦、分布, イモリ、トウキョウサンショウウオ、アカガエル類

・昆虫類 トンボ、 バッタ セミ 、チョウ、 甲虫、 ハチ

・水田にすむ淡水動物 魚類 ホトケドジョウ、ドジョウ、メダカ

水生昆虫(ゲンゴロウ類、ミスカキリ、など) 貝 タニシ、シジミ

甲殻類 エビ、カニ、

・里山・谷津田の食物網

(2)市街地や太田山、小櫃堰公園の動物

哺乳類、鳥、昆虫

(3)河川や堰の動物 矢那川、小櫃川、各地の堰 魚、エビ、その他

(4)干潟の動物

- ・はじめに(干潟の成り立ちと地形)
- ・干潟の鳥類 シギ・チドリ、など(三角州ヨシ原も含める)
- ・海浜性昆虫、ヨシ原の昆虫
- ・底生動物 巻貝、二枚貝、ゴカイなど
- ・その他

(5) 浅海の動物 海産魚、甲殻類、底生動物など

(6) 移入された動物と温暖化に伴いすみついた動物

- ・陸産 ハクビシン、イノシシ、台湾シジミなど
- ・淡水産 台湾シジミ、カダヤシ
- ・海産 ミドリイガイ、サクグロタマツメタガイ、ハマグリ

(7) 貴重な動物→干潟に生息するものが大部分なので、干潟にいれる？

キイロホソゴミムシ、フトヘナタリ、ハナグモリガイなど

4 トピックス～特色ある自然～(囲み記事)

- ・クリ林の昆虫 ・ナシ園の昆虫 ・小櫃川河口干潟のシガ ・アカテガニの放仔
- ・その他

V 人と自然 →要検討 農業と生産など

編集をおえて

資料編 CD 主にデータ

1 地学・天候関係

2 植物

3 動物種リスト

採集月日と産